

## 関東部会 2024 年度部会研究会

### -----4 月部会研究会-----

【日時】 2024 年 4 月 13 日 (土) 13:00~17:00 (17:30~19:30、対面にて懇親会)

【場所】 慶應義塾大学三田キャンパス北館 3F 大会議室

#### ◆◇◆ マーケティング・サイエンス 13:00~14:00 ◆◇◆

※敬称略

【コーディネーター】 寺本 高 (中央大学)、中野 暁 (明治学院大学)

【研究発表】 (報告 20 分、質疑応答 10 分)

報告(1)「顧客エンゲージメント測定の課題」

報告者：佐藤平国 (明治大学)

報告(2)「モバイル買物リストの具体性と購買リードタイムが計画購買の達成に与える影響」

報告者：寺本 高 (中央大学)・中野 暁 (明治学院大学)・赤松直樹 (明治学院大学)・佐藤伸 (CCC マーケティング総合研究所)

#### ◆◇◆ フリーセッション 14:10~15:30 ◆◇◆

※敬称略

【コーディネーター】 菅野佐織 (駒澤大学)、高田英亮 (慶應義塾大学)

【研究発表】 (報告 20 分、コメント 10 分、質疑応答 10 分)

報告(1)「メタバースへの製品展開が消費者行動に及ぼす影響」

報告者：福田怜生 (亜細亜大学)・赤松直樹 (明治学院大学)

コメンテータ：杉谷陽子 (上智大学)

報告(2)「流通チャネルの再構成と成果」

報告者：白 謹豪 (慶應義塾大学大学院)

コメンテータ：久保知一 (中央大学)

#### ◆◇◆ 消費者行動 15:40~17:00 ◆◇◆

※敬称略

【コーディネーター】 清水 聰 (慶應義塾大学)、坂下玄哲 (慶應義塾大学)

【研究発表】 (報告 20 分、コメント 10 分、質疑応答 10 分)

報告(1)「オンライン空間におけるブランドのダイナミクス—ネットノグラフィーによる予備的な分析結果と考察—」

報告者：六嶋俊太 (一橋大学大学院)

コメンテータ：久保田進彦 (青山学院大学)

報告(2)「海外での日本の評価と日本ブランドの購買意向の研究～オーストラリアでの調査から」

報告者：宮本純至（慶應義塾大学大学院）

コメンテータ：朴 正洙（駒澤大学）

-----7月部会研究会-----

【日時】 2024年7月20日（土）13：30～17：10（その後、対面にて懇親会）

【場所】 慶應義塾大学三田キャンパス北館3F大会議室

◆◇◆ フリーセッション 13：30～14：50 ◆◇◆

※敬称略

【コーディネーター】 小野晃典（慶應義塾大学）・西原彰宏（亜細亜大学）

【研究発表】（報告20分、コメント10分、質疑10分）

報告（1）「How Does Standing Far and Close Affect Consumers' Responses to Different Advertising Appeals?」

報告者：王カク（慶應義塾大学大学院）（カクは王へんに玉）

コメンテータ：外川拓（上智大学）

報告（2）「複数の触覚の手がかりが製品の心理的所有感に及ぼす影響」

報告者：権純鎬（神奈川大学）・河股久司（日本大学）

コメンテータ：杉谷陽子（上智大学）

◆第一部 15：00～16：20◆

※敬称略

【テーマ】 マーケティング戦略

【コーディネーター】 井上淳子（成蹊大学）・松下光司（学習院大学）

【研究発表】（報告20分、コメント10分、質疑応答10分）

報告（1）「B2B ブランド・コミュニティにおける能動的参加行動の研究 ～自己効力感とその源泉となる体験が行動に及ぼす影響に着目して～」

報告者：長橋明子（慶應義塾大学大学院）

コメンテータ：宮澤薫（神奈川大学）

報告（2）「芸術支援は消費者購買行動をもたらすのか：空間メディアへのスポンサーシップによるソフトセル戦略」

報告者：藺部靖史（東洋大学）

コメンテータ 芳賀康浩（青山学院大学）

◆第二部 16：30～17：10◆

※敬称略

【テーマ】 マーケティング・コミュニケーション

【コーディネーター】 広瀬盛一（東京富士大学）・松井剛（一橋大学）

【研究発表】（報告 20 分、コメント 10 分、質疑応答 10 分）

報告 (1) 「消費文化の翻訳と概念構築：アクターネットワーク理論に基づく「渋谷系」音楽の形成事例の分析」

報告者：朝岡孝平（高知工科大学）

コメントータ：廣瀬盛一（東京富士大学）

#### -----9 月部会研究会-----

【日時】 2024 年 9 月 21 日（土） 14:00-16:30

チュートリアルセッション

【場所】 拓殖大学・文京キャンパス C 館 5 階 C501 教室

\*2 階がエントランス階になります。

【テーマ】 質的調査の考え方

【講師】 佐藤郁哉（同志社大学）

【コーディネータ】 久保知一（中央大学）、田嶋規雄（拓殖大学）

#### 【セッションの目的】

社会現象を対象とする経験的研究（empirical research）は、アプローチによって量的研究と質的研究に大別されます。

研究者の評価基準が英文査読論文重視になったことを背景として、量的研究に従事する研究者が増えています。

一方で、質的研究でしか実現できない社会現象の因果メカニズムの読み解きや分厚い記述は多くの研究者を魅了します。

日本商業学会でも、学会賞受賞作には質的研究が少なくありません。

しかし、質的研究は量的研究に比して方法論が明確でない、言い換えれば暗黙知の要素が多いためか、『流通研究』をはじめとする査読誌にはなかなか掲載されない傾向があります。多くの研究者は、いくつもの優れた質的研究の成果を知っています。

しかし、どうすれば優れた質的研究を実行できるかは個人の暗黙知に隠されたままにあると思われま。そこで、今回のチュートリアルセッションは、質的調査の研究方法についての理解を深めるために企画されました。

講師として、長年にわたって定性的研究とその方法論の解説に取り組んできた佐藤郁哉先生をお招きして、「質的調査」についてレクチャーをしていただきます。

佐藤先生は処女作の『暴走族のエスノグラフィー』（新曜社）以降も『現代演劇のフィールドワーク』（東京大学出版会）、『本を生み出す力』（新曜社・共著）など数々の優れた質的研究を世に問い、定量も含めた社会調査一般にも通暁しておられます。

また、技法書としては、『社会調査の考え方[上][下]』（東京大学出版会）、『リサーチ・クエスチョンとは何か？（仮）』（筑摩書房・近刊）、

『面白くて刺激的なリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方』（白桃書房・第2版の訳書が近刊）などがあります。

今回は学会員の関心に合わせて、企業戦略や消費者行動にも触れながらお話くださいます。

-----11月部会研究会-----

【日時】2024年11月9日（土）：13時30分から17時45分

【会場】青山学院大学青山キャンパス17号館17510教室

◆◇◆ フリーセッション（13時30分～14時20分） ◆◇◆

※敬称略

【コーディネーター】杉谷陽子（上智大学）

【研究報告】（報告20分、コメント10分、質疑10分）

1. 事務局からのご挨拶、ご連絡（13時30分～13時40分）
2. 「食品のパッケージサイズが摂食抑制者の摂食に及ぼす影響」（13時40分～14時20分）  
報告者：河塚 悠（成蹊大学）  
コメントーター：外川 拓（上智大学）

◆◇◆ テーマセッション（14時30分～17時45分） ◆◇◆

【テーマ】地域産業研究とマーケティング戦略（「流通・商業」「マーケティング理論・歴史」合同セッション）

【コーディネーター】東伸一（青山学院大学）、原頼利（明治大学）、石川和男（専修大学）、戸田裕美子（明治大学）

【研究報告】（報告40分、質疑応答10分）

1. 合同セッションの趣旨について（14時30分～14時35分）
2. 「産業全体の国際展開をもたらす国内業界の戦略深化ー日本酒産業の事例からー」（14時35分～15時25分）  
報告者：岸保行（新潟大学）
3. 「家業承継者の起業家活動」（15時30分～16時20分）  
報告者：山内雄気（同志社大学）  
休憩（16時20分～16時30分）
4. 「地場産業による地域ブランド醸成の軌跡ー神戸スイーツの事例ー」（16時30分～17時20分）  
報告者：西村順二（甲南大学）
5. 質疑応答（17時25分～17時45分）

-----3月部会研究会-----

【日時】 2025年3月22日（土）15：00～17：00

【会場】 上智大学 四谷キャンパス 2号館4階401教室

【テーマ】

先達に学ぶ：良いマーケティング研究とは？

【講師】

阿部周造 先生（横浜国立大学名誉教授、早稲田大学消費者行動研究所顧問）

【コーディネーター】

柴田典子（横浜市立大学）、外川拓（上智大学）

【セッションの目的】

「良い研究」を行うために、私たちは何を学び、どのように考える必要があるのでしょうか。分析技法や研究ツールなどについては日々新たな潮流が生まれていますが、一方で、時代が移ろいでも変わらない重要な視座や考え方もあるように思われます。

本セッションでは、横浜国立大学名誉教授の阿部周造先生をお迎えし、上記の課題に対するお考えを教授いただきます。

阿部先生は長年にわたり、マーケティング、特に消費者行動領域の最前線でご活躍され、現在も研究成果を精力的に発表されています。

ご参加の皆様にとって、マーケティング研究者が変わらずに持ち続けるべき思考や今後求められる事柄を考える機会となれば幸いです。

ご講演のあとは、質疑応答の時間も設けておりますので、活発なセッションとなることを期待しています。